

(一社)福祉総合支援機構
代表理事

PICK UP

THE PERSON

杉山悦夫

KEY WORD

至福

— shifuku —



●対談記事は 80・81 頁に掲載

「障がい者の方たちと共に過ごす
今こそが人生で一番幸せです」

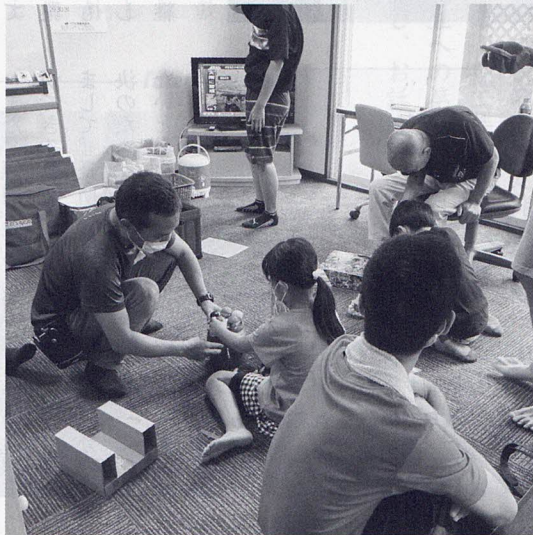
杉山代表が初めて福祉の世界に携わったのは、様々な仕事を経験し、苦労も重ねた後の40代後半のこと。それまで障がい者との関わりがほとんどなかった代表は共に農業に励み、驚いた。障がいを持つ子どもたちには健常者にはない特別な才能と個性がある。そうした才能や個性を発見する日々、代表は胸を躍らせたという。10年もの時が流れ、代表は自ら福祉事業を手掛け、変わらず子どもたちの才能や個性を発見し、皆を支える毎日を送っている。「人生の中で、今が一番幸せ」——そんな無上の喜びと充実感を覚えながら。



一般社団法人 福祉総合支援機構

愛知県清須市
須ヶ口駅前2-72

障がい者向けの訪問介護事業、障がいを持つ子どもたちの放課後等デイサービスを手掛けている『福祉総合支援機構』。きめ細かいサポートが特長で、日中一時支援事業所「楽笑」や地域活動支援センター「アスタリスク」、移動支援事業「0+倶楽部」も備えている。業界でも数少ない福祉有償運送事業の認可も得ており、障がいを持つ人々の足となって暮らしを支えている同社を、松尾伴内氏が訪問。杉山代表にお話を伺った。



障がいを持つ子どもたちと豊かな日々を送る
優しさと温かさに満ちた福祉事業者

グループホームという、新たなるチャレンジへ

▼2020年に法人設立と還暦を迎えて、新たなチャレンジを続けている杉山代表。近々の目標としては、2023年ごろにグループホームも立ち上げたいと構想中だ。これは、現在手掛けている放課後等デイサービスに来てくれている子どもたちを見て、大きくなって自立を目指す時に進むことができる場所を確保してあげたいという思いから始まったものだという。

▼同じ会社でグループホームの運営が始まれば、本人も保護者も安心できるだろう。現状、全国的にグループホームへの入居を希望する人は増えており、待機者が多い。こと愛知県に関しては、グループホームの数が全国で一番少ないのだから。待ちわびている入居希望者に1日でも早くそういった場所を提供したい。代表のチャレンジはまだ続く。





代表理事

杉山悦夫

——杉山代表は、どのようにして現在の福祉の世界に出会われたのでしょうか。

2011年ごろ、事業主と障がい者の雇用について支援を行う「職場適応援助者（ジョブコーチ）」の農業版である農福連携技術支援育成研修の受講者を募集しているのを偶然知り、応募したのが始まりでした。これは障がい者の方などが農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していくことを目的とした農福連携の取組で、受講者はまずセミナーを受け、次に障がい者の方と一緒に農業をする3カ月の実践があったんです。私はそこで初めて障がい者の方々と出会い、本当に楽しい経験をする事ができました。私は運送業をはじめ様々な仕事を経験してきましたが、これほど充実した日々はなかった。最初は生活の糧として始めたことでしたが、自分でも想像しなかったほどに打ち込むようになっていったのです。

——ほう。どのようなところに充実感を抱かれたのでしょうか。

私は現在60歳で、子どもの時分に障がい

者の方々と関わる事があまりない世代だったんです。学校にも特別学級はなかったように思います。だから障がい者の方々のことをよく知らずに育って参りました。それが、実際に一緒に働き、身近に接してみて、一人ひとりに特別な能力があることを知り、驚いたのです。ある人は花の名前を一度で覚えて絶対に忘れないですし、ある人は

つまでも作業をやり続けることができる。そんな素敵な力や個性を持っているという発見が、とても嬉しかったのです。

——では、その後福祉の業界に本格的に入られて？

はい。研修が終わって、名古屋の介護施設で働き始めました。そこから10年以上福祉の仕事が続ける中で、思いがけず転機が訪れたのです。と言いますのも、勤めていた介護施設の発起人だった方が病気で倒れてしまいました——その方は別に障がい者支援の事業もされておられ、こちらの法人を引き受けてほしい、というお話をいただいたんです。それで2020年に新たに法人を立ち上げ、前身の会社から事業を引き継いだ次第です。それがこの『福祉総合支援機構』なんです。

——そのような経緯で事業を始められたのですね。こちらの事業内容と言いますと？

メインとなるのは障がいを持つ児童の放課後等デイサービスと障がい者宅への訪問介護事業です。放課後等デイサービスの利用者には知的障がいをはじめ、様々な障がい

を持つ子どもたちで、学校から帰って来てここでしばらく過ごします。そして活動の中で、みんな想像以上の才能を見せるんですよ。絵が上手い子、音感の鋭い子、その才能に接すると、本当に心を打たれます。

——子どもたちの才能や個性に理解のある代表にうつつけのお仕事ですね！

また障がい者宅への訪問介護事業は、お宅に伺って身の回りのお世話をするサービスです。手帳を持っている障がい者はこのサービスが受けられるのですが、65歳からは介護保険に切り替わります。そうなるご自己負担が発生してしまうのが、私は問題だと思っています。年を取れば取るほどサービスに頼らなければならなくなるのに、そこにお金が掛かるので使いにくくなっているんですよ。

——それは年を取ることに心細くなってきましたね。

そうですね。それでという訳でもないので、当社では福祉有償運送事業も行っています。介護保険や障がい者手帳の利用者の方専門に、買物や通院などの移動を有料でサポートする仕事で、この許可を持っている事業所はまだ少ないんですよ。

——かつて運送業に携わっておられた経験が、今に活かしていると感じます。

若い時から様々な仕事に従事してきましたが、巡り巡ってこの仕事に就けたことは幸運でした。これを幸運と感じられるのも、色々な経験をしてきたからで、人生に無駄なものはないと感じます。この年になるともう物欲も無くなり、そうなる仕事の目的はお金じゃなくなるんですよ。障がいを持つ方々もお金が欲しくて働いている訳ではなく、周りに認められたらという願

のほうが強いんです。お互いにお金が目的じゃないから、一緒に働いていて心地良いんですよ。私は今、充実した毎日を送っていて、これまでで一番幸せな時期だと思っています。

——今一番幸せなんて本当に素晴らしいことですね！最後に今後の展望を。

嬉しいことに、共に働くスタッフたちも私の志に賛同してくれる人ばかりです。そんな人材は探してもなかなかいないですから、本当に恵まれていると思います。どんな仕事もそうでしょうが、福祉事業においては特に人が重要。だから志を同じくする仲間がいる当社は、業界でも高く評価いただいているんですよ。今後もそんな信頼できる皆と励み、ゆくゆくは頑張ってくれている仲間たち一人ひとりが、事業所を持って頑張っていくと嬉しく思います。

After the Interview

「杉山代表は今後、障がいを持つ方々だけで法人を立ち上げ、それぞれの得意分野を活かした事業を展開していきたいと考えています。5年後には道の事業示したいとのこと、今後の動向が今から楽しみです。代表者である代表のもと、子どもたちがさらに活躍できるように、私も陰ながら応援しています！」



松尾 伴内
(タレント)